

鎌倉研究における考古学の役割

第3回 鎌倉の考古学と遺物

古田土俊一

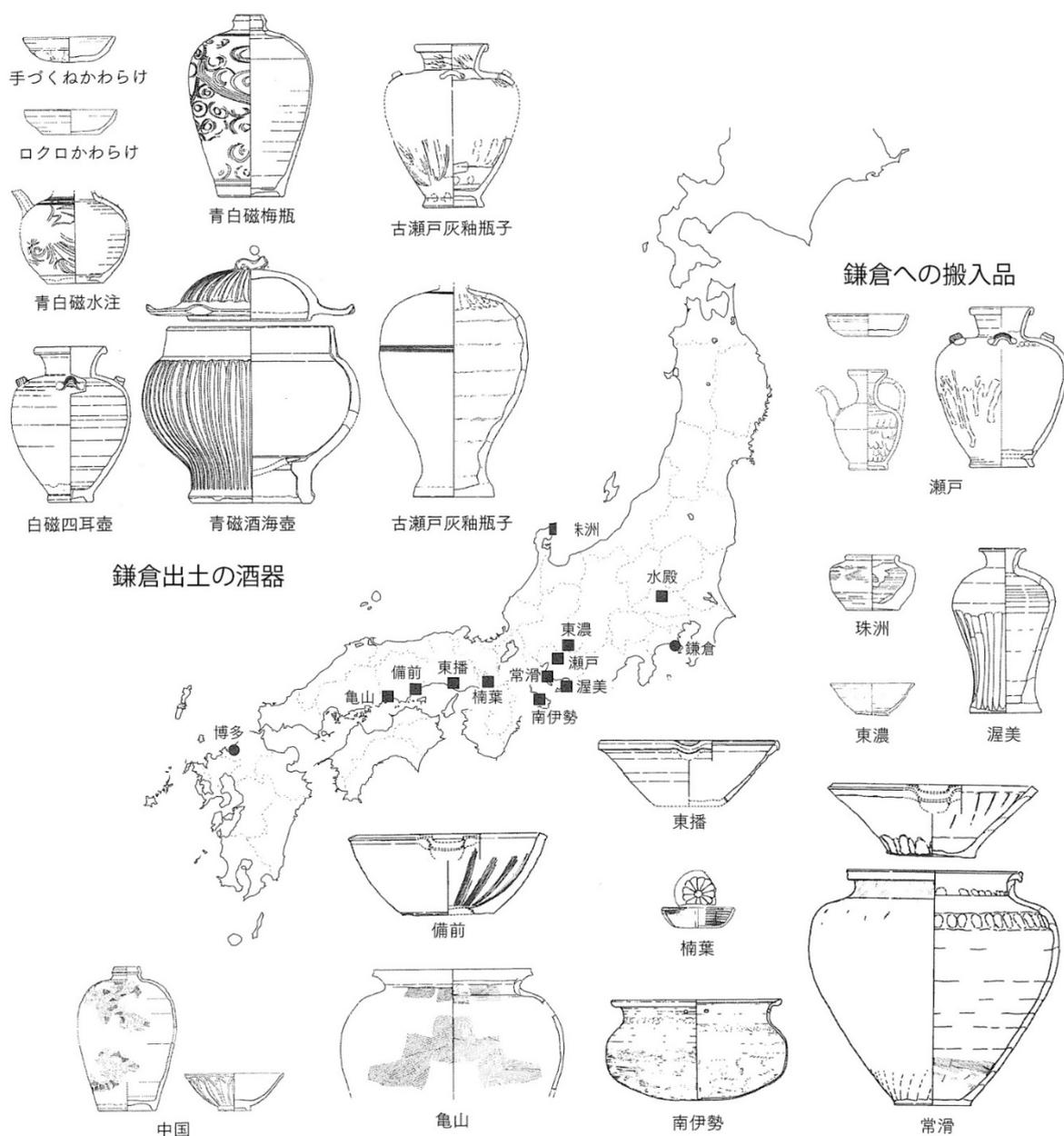
鎌倉の遺跡で出土する遺物から当時の人々の生活や信仰の様相を紹介する。

◇鎌倉の出土遺物と流通

- ・日々の研究により遺物の分析ややきものなどの産地同定が進んでいる。

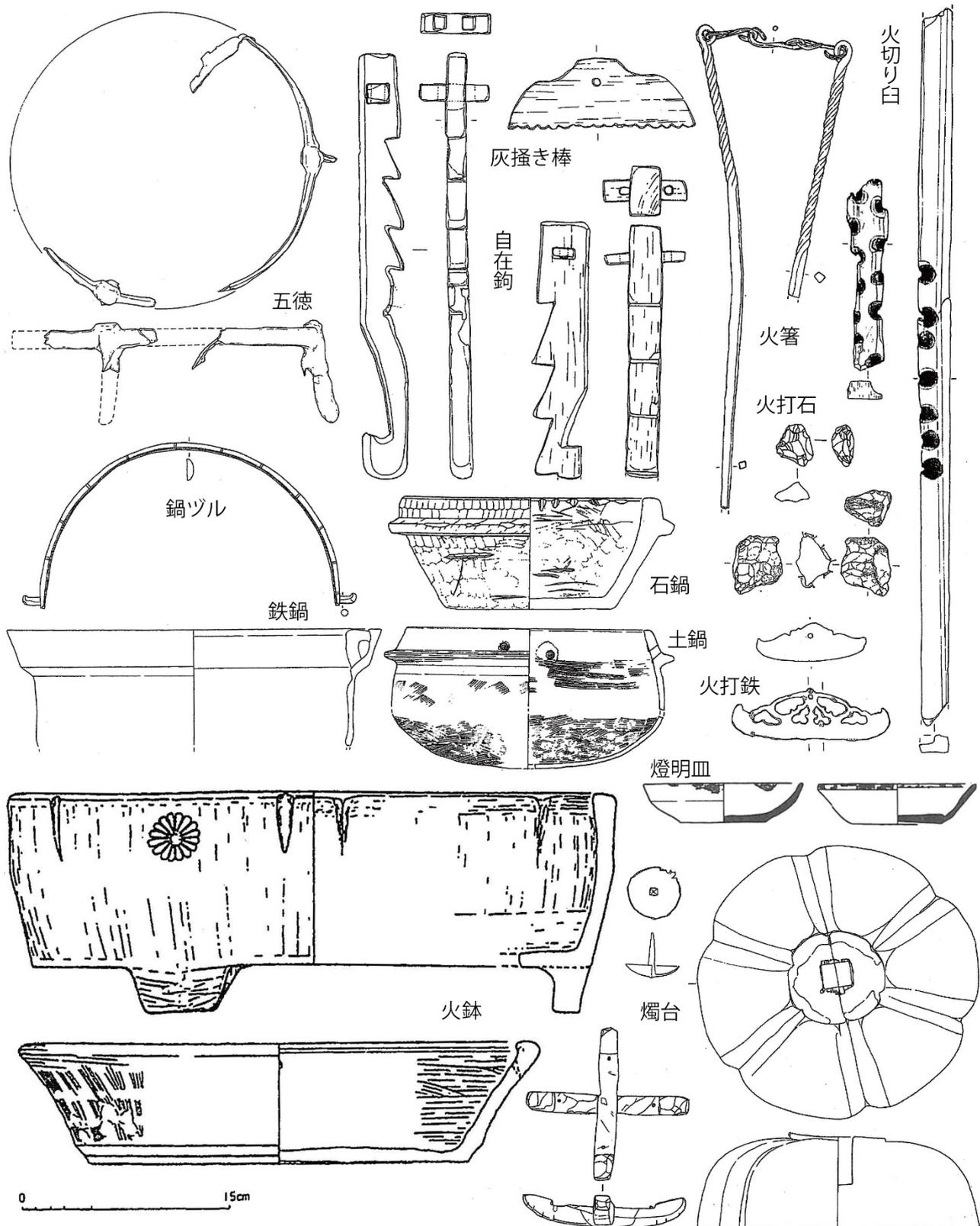
鎌倉に輸送された物資は国内の窯業製品（尾張・瀬戸内など）のほか、中国・朝鮮の青磁、白磁・青白磁なども含まれ、なかには山口県の砥石、長崎県の石鍋、奄美大島近海の夜光貝などもある。

- ・特に鎌倉の出土品は舶載陶磁器の出土量が他地域に比べて桁違いに多く、青磁碗・白磁皿などは市井の者までが日常の食器として使用していたと考えられている。→居住者の推定が困難とも言える。



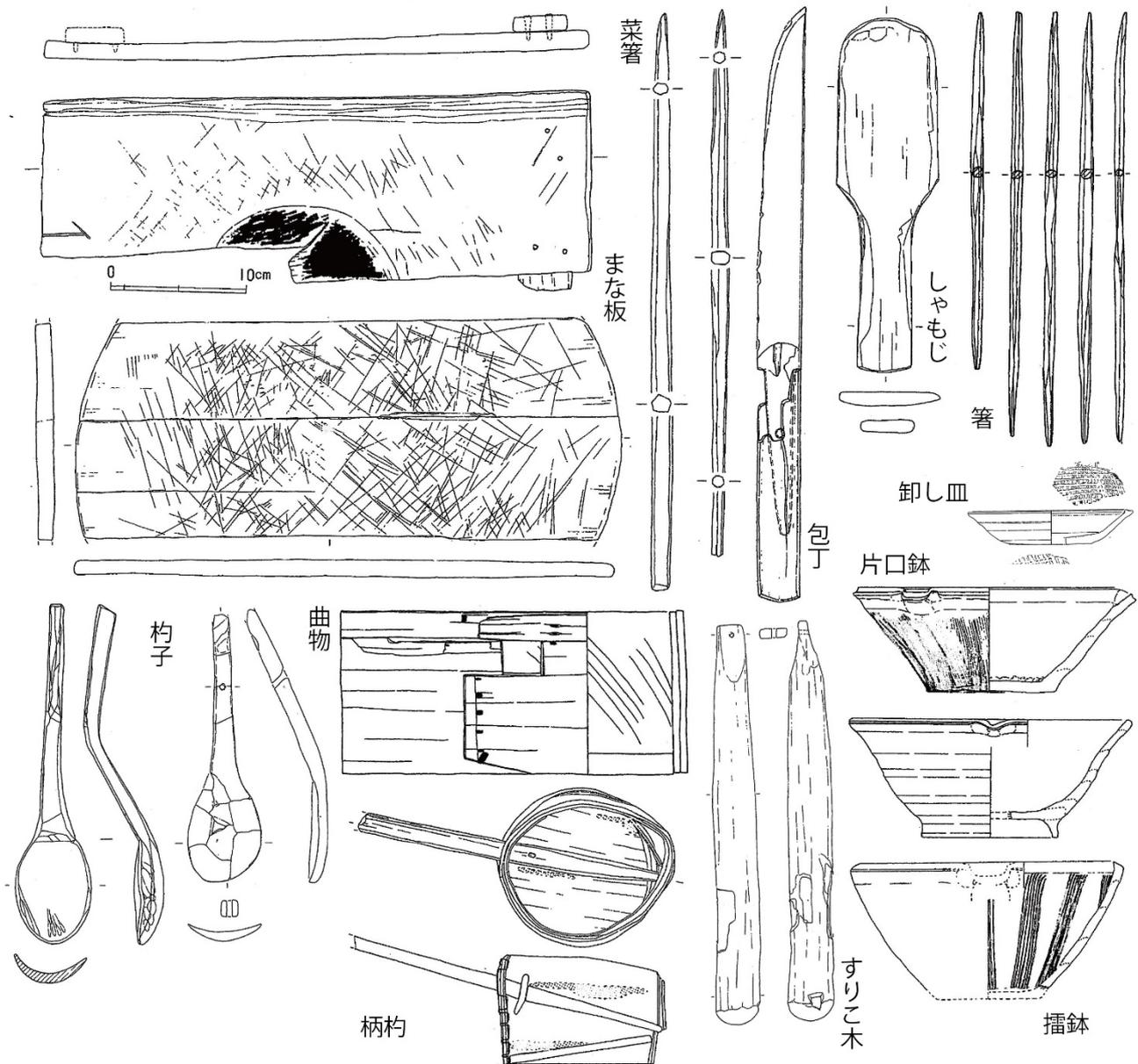
鎌倉へ搬入されるやきもの(青磁・白磁・青白磁などの磁器は中国から)

◇火を灯す・くべる

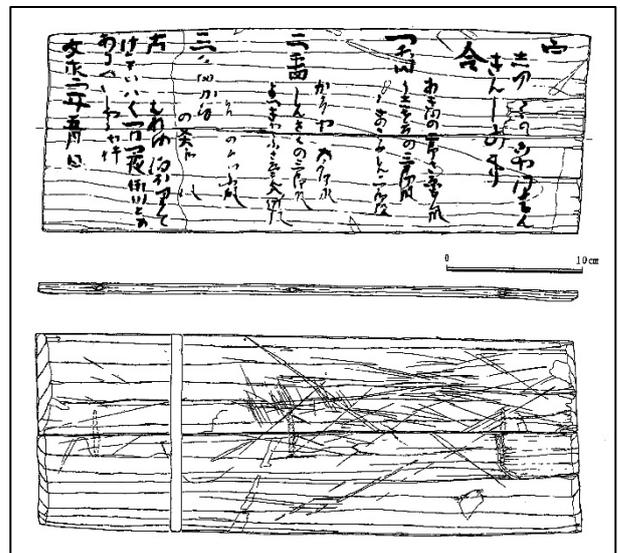


- ・「西のカマド、東の囲炉裏」と言われるように、鎌倉では囲炉裏の方が出土する（多くは無い）。
- ・囲炉裏の出土が少ないため、多く出土する火鉢を調理器具に使ったのではとの説もある。
- ・燈明にはかわらけが使用され、まれに煤が付着している白磁皿なども出土する。

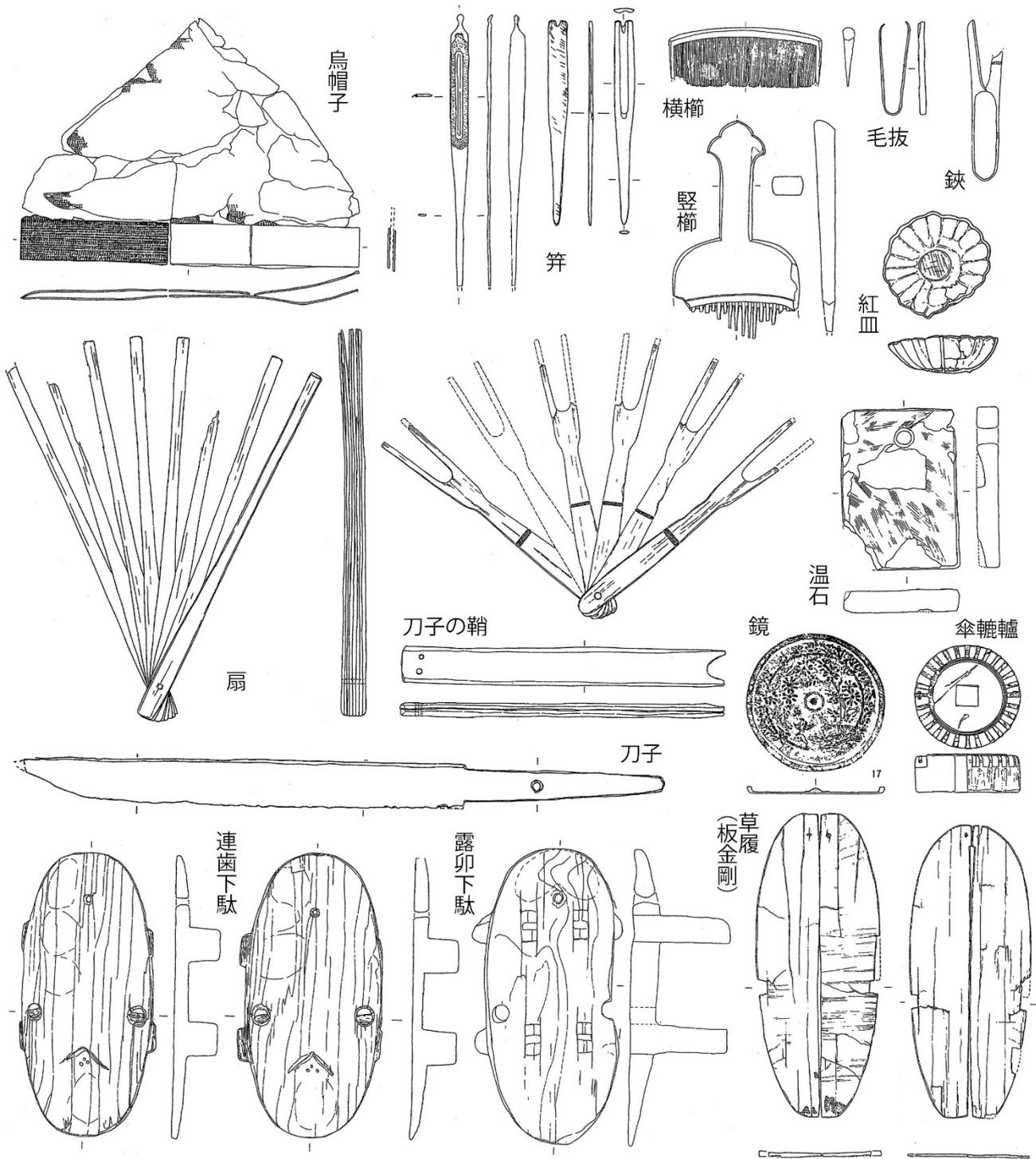
◇調理する



- まな板は他の用途に使用された板が転用されることが多い (右図)。
- 出土例は多くないが、まな板は包丁と菜箸がセットとなっていたことが絵巻などからわかる。
- 常滑窯の片口鉢はすり目がない。こねる作業に使用。
→粉食が多かったと考えられている。
- 片口鉢はすりこ木としゃもじがセットになっていたことが指摘されている。
- 柄杓は水甕として常滑窯の甕とセットで使用。
- 曲物を固定するのは桜皮を使用する。

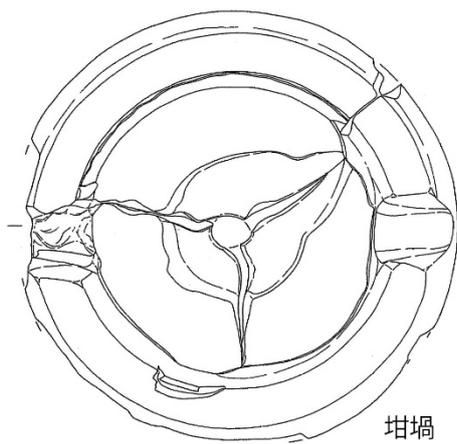


◇身なりを整える

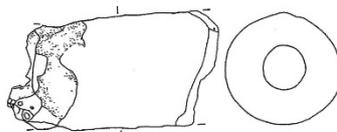
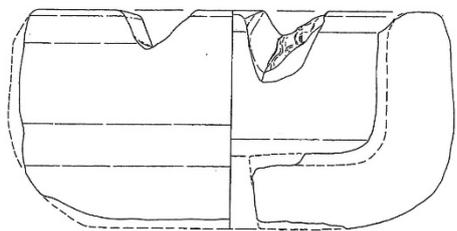


- ・ 烏帽子は成人男性の証であり人前では外すことは恥辱。笄（コウガイ）で固定する。
- ・ 笄は刀剣の付属品で、髪を解いたりほつれを直したりもする。金属製と骨製が出土している。
- ・ 櫛は竖櫛と横櫛があり、竖櫛は馬櫛か。横櫛は汚れを落とす梳き櫛と髪を解く解き櫛がある。
- ・ 温石はカイロ。布や板材で熱した本品を包み懐に入れる暖房器具。懐石の由来。
- ・ 連齒（レンシ）下駄は台と齒が一木の下駄。露卯（ロボウ）下駄は差し歯で後出。
- ・ 草履は板金剛とも呼ばれ、板心を藁で編み込む。

◇モノをつくる

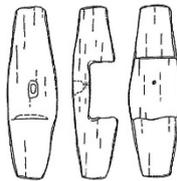
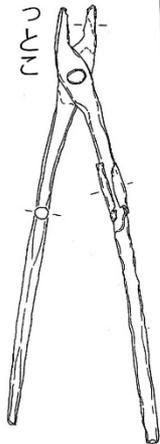


坩堝

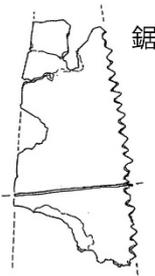


鞆の羽口

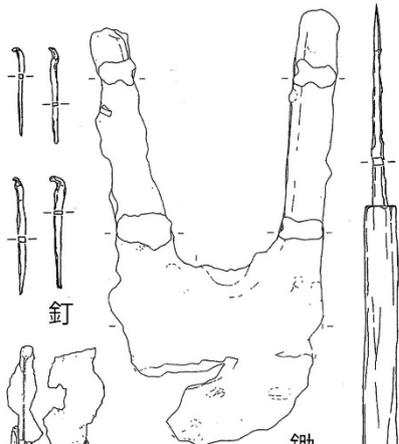
やつてん



箱鞆の把手

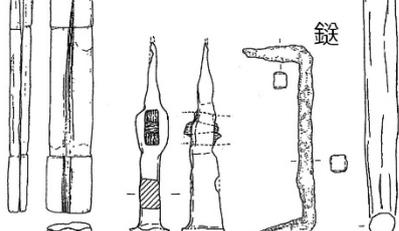


鋸



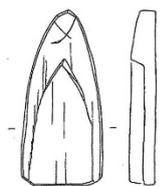
釘

鋤

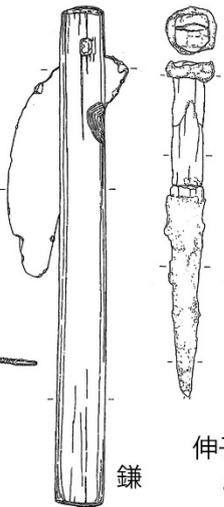


金槌

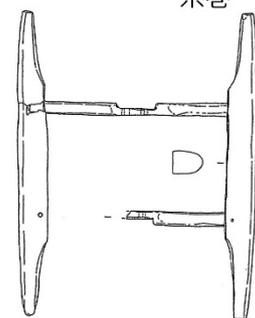
錐



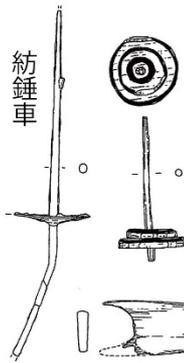
槍砲の鞘



鑿



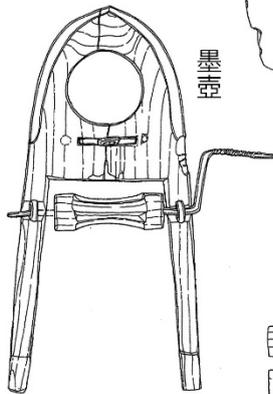
糸巻



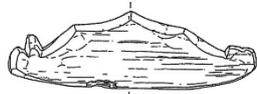
紡錘車



手押木

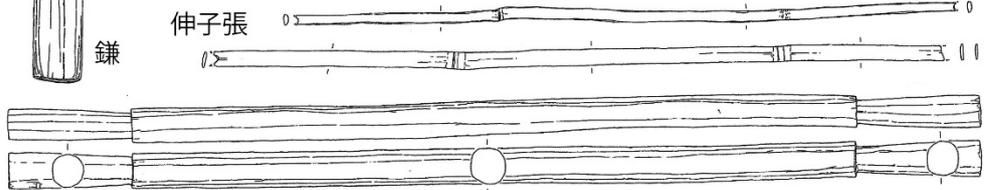


墨壺

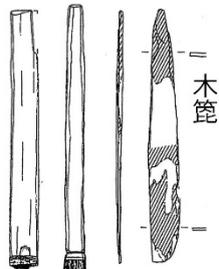


杼

伸子張



塗刷毛



木篋

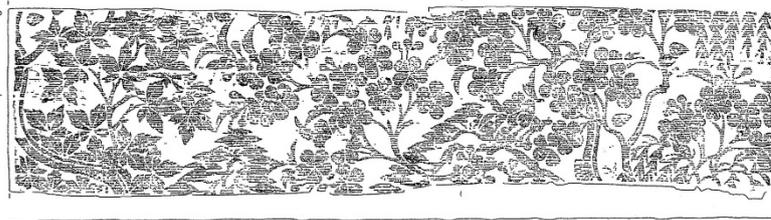


漆パレット

螺鈿細工

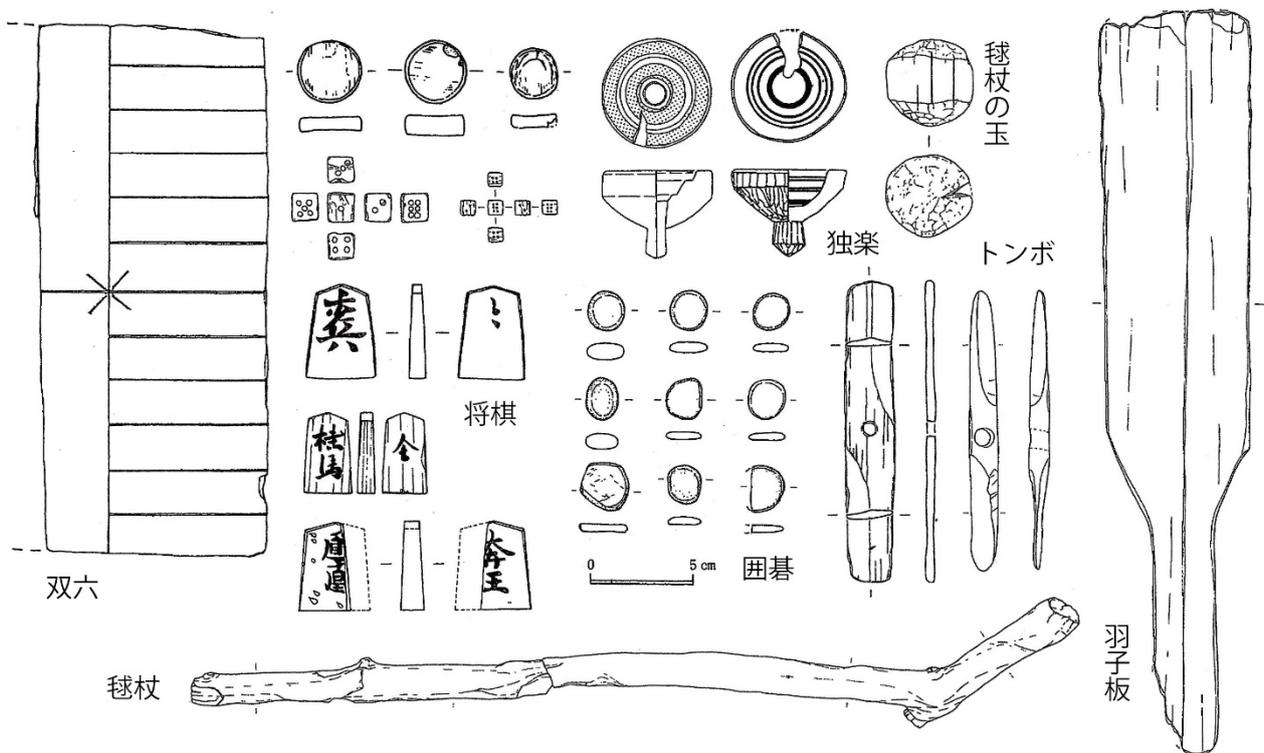


纈纈



- ・出土する道具から、鋳物、建築、木工、紡績、漆芸など職能者の存在が確認できる。
- ・鞆（フイゴ）は炉に風を送るための道具。鎌倉では箱鞆などで小規模な活動のみか。
- ・紡績は家ごとの女性の仕事か。纈纈は板締め染物に使用。
- ・漆工芸は律令期には官工房による独占少量生産で盤と椀が主流であったが、11世紀代から安価な渋下地漆器の量産と漆絵による絵画が採用され、13世紀以降は食器として「西のやきもの、東の漆」と言われるほど普及（器形は椀と小皿が主流）。
- ・鎌倉から出土する漆器は大半が渋下地漆器に加飾されたもので、スタンプ文も多い。漆器は福岡・広島・京都・滋賀・静岡・福井・石川・宮城などでも出土している。

◇遊ぶ

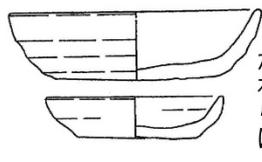


- ・現在も正月行事として行われている遊びが多く、子供の遊びは健康を祈る呪術性を含んでいる。
- ・双六は現代のバックギャモンのルールに相当する。
- ・将棋は「鳳凰」「奔王」があり大将棋、中将棋の存在を示す。
- ・毬杖（ぎっちょう）は馬に乗って玉を奪い合う競技「打毬（だきゅう）」が変化し発生。毬杖の文化は失われているが、打毬は現代でも伝統文化として継承されている。この毬杖も正月行事として行われ、一説には正月明けに行われる左義長（どんど焼き）の名称の由来になっているとも言われる。

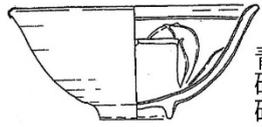
参考文献

- 小野正敏（代表編集）2001『日本の中世遺跡』東京大学出版
 河野真知郎 1995『中世都市鎌倉：遺跡が語る武士の都』講談社
 浅野晴樹 2020『中世考古〈やきもの〉ガイドブック：中世やきもの世界』新泉社
 法政大学出版局 1968～『ものと人間の文化史』シリーズ

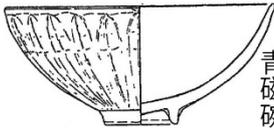
【参考】うつわ



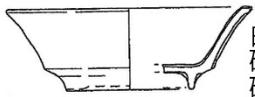
かわらけ



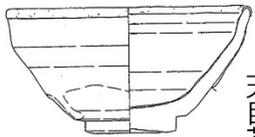
青磁碗



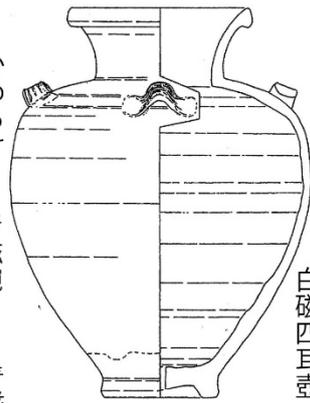
青磁碗



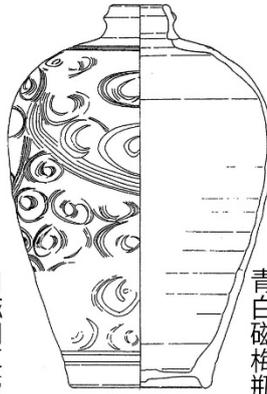
白磁碗



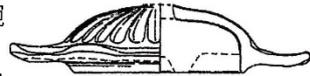
天目茶碗



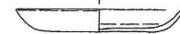
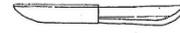
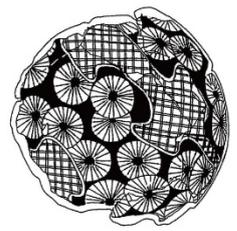
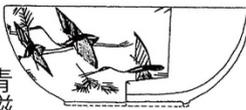
白磁四耳壺



青白磁梅瓶



青磁酒会壺



漆器椀・皿

